

---

# 衛生兵 A くんのお話

うしおなとら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

衛生兵Aくんのお話

### 【Nコード】

N1577N

### 【作者名】

うしおなとら

### 【あらすじ】

少し変わった恋姫をどうぞ。執筆していただけるといふ神のような方がいらっしやいましたらご一報ください。

青年は今の状況に呆然と立ち尽くしていた。

「……どうよ……」

蒼天は高く澄み渡り、見渡す限りのただっ広い荒野。

映画が何かで見るとはならないような、一般的日本人には旅行にでも行かない限り見ることのできない光景。

だがしかし、彼は少々違っていた。

まあそれは一先ず置いておいて、くるくると辺りを見渡してみる。  
地平線の彼方すら見える、そんな大地。

ジリジリと、照り尽くす太陽が恨めしい。

そしてツンと鼻につく嗅ぎ慣れた鉄の匂い。

「やっぱここも？……ってですよ、俺の仕事場なわけだもんね  
」

恐らくここに来たのは誰かに拉致られた？

不穏な考えも浮かんでくるがとりあえず消去。

今やるべきこと、自分がするべきことはただ一つなのだから。

「さて、今日も元気に直していきますかイ」

ポツンと見える黄色の布が旗印。

そちら目掛けて彼は走って行った。

出会いはいつだって唐突。

でもいつだってするべきことはただ一つ。

そう、たとえ過去に送られたとしても。

「武器は鎧の付いた蛮刀だけ？いつの時代のゲリラだよ」

「誰だお前は！！」

「あああぶない人かもしれないんだな」

「アニキー、イテエよぉー！！」

「怪我人発見つと、なかなかナイスな怪我だな」

「だから誰だよ！！」

「俺か？そつだな……先生とでも呼べ」

主人公たる者たちに少しだけ関わってきた彼ら。  
そんな彼らは奇跡をみる。

「とつと湯を沸かさんかい！このチビが死んだらどうすんだ！！」

「いいいいいいまやってるんだな」

「先生！この針を焼いてきたぜ！」

「俺の身体に何する気だ！」

「簡単簡単、糸を通すだけだからな」

「ッ！そんなアブねえこと出来るわけないだろ！？」

「ビビんなビビんな、じゃあ……逝くぜイ？」

「……みぎやアアアアアアア！」

やがて少しだけ名の知られるようになった彼。  
でも彼のやることは決して変わらない。

「腕がスッパリいつてんねえ、無茶したらいかんでしょう？」

「ウルセエ、女相手にやられて逃げ帰れるか！」

「はいはいスゲエスゲエ、だったら痛いのも平気だよな？」

「へ？いや、それとこれとは話が違っ……」

「言つとくけど波才の旦那、この治療は……超イテエよ?。」

彼の前では誰もが平等。

それは彼の大事なモットーだから。

「折れてんな……、うし!切って無理やり骨繋げるか」

「先生……大丈夫なのか?」

「もちろんだ、まあ任せとけ」

「アンタ医者なんでしょ!私の脚切れちゃったの!!」

「ほわあほわあほわあああああつ」

「怪我人は黙ってる!!ってこんだけ?毛筋くれえじゃねえか!?」

「そんなこと言っても切れたんだもん!早く治療してよ」

「やだ」

「なんでよ!」

「直して欲しけりゃ並べコノヤロー」

戦はひとまず終結する。

そんな彼を求める人も現れた。

「あなた……凄まじい医療を用いるそうね」

「普通だぜ？ただの戦場医だし」

「私のものになりなさい、そしてその技術を広めなさい」

「なんでよ」

「その方が多くの人を救えるでしょ？」

「やだ」

「……どうしてかしら」

「俺の食いぶちがなくなるから」

「……」

「……」

「え？」

「へ？」

知り合ったのは現代人。

同郷の者に少し心がいやされる。

「究極の萌えはメイド服だと思うんですよ」

「馬鹿言っちゃいけない、やっぱ至高は軍服かナース服だろ」

「……軍服だらけですよ？」

「あんなもん軍服じゃねえよ」

彼は所詮衛生兵。

チンの使いとは違うのだ。

しかしそんな彼にもラブロマンスが。

「ふむ、暇だったか？」

「まあなんとかねい……用事か？」

「いや……そう言う訳ではないが……、それより口のは？」



「煙草、これが無いとダメになっちまってねえ」

「そうか」

「そ

「……その……だな、もし暇だったら食事でも」「あ………どうした？」

「いや、ちょっと悩みがな……恋煩いってヤツだ」

「ほ………ほう？」

「水色髪がな映えるヤツでな………一目ぼれってヤツだ」

「それはいいことだ!!是非告白というものをするべきだ!!」

「そうかあ？」

「ああ!きつと相手も同じ気持ちだ!!」

「そか………じゃあ俺さ、越雲って名前だっけ?アイツに告白してみるわ」

「………」

「………」

「え？」

「マジだぞ」

はたして彼はこの乱世で消えゆく命を救えるのか？

「そんなもんより金が欲しいぜ、あと真名貰いてえなあ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1577n/>

---

衛生兵Aくんのお話

2010年10月10日20時57分発行